

編集後記

2019年12月、中国の武漢市で肺炎患者が増え続け、原因が新型コロナウイルス感染症(COVID-19)であることが明らかとなり、2020年3月にパンデミックが宣言され日常生活に重大な影響を与えた。新型コロナウイルスの発生から3年余りが経ち、2023年1月に政府は新型コロナウイルスの感染法上の分類を季節性インフルエンザと同じ「5類」に引き下げると発表した。ウイズコロナに向けて、そしてコロナ禍からの脱出の大きな一歩となることが期待される。

今年度、第12回東北放射線医療技術学術大会(東北支部第60回学術大会)は、大会テーマを『Self Innovation -今そしてここからのあゆみ-』として、新潟市(朱鷺メッセコンベンションセンター)で開催された。コロナ禍のためハイブリッド形式の開催ではあったが、実行委員のご尽力により限りなく対面に近い形での運営が行われ、Face to Faceで活発な意見交換が行われた。特別講演、シンポジウム、大会長講演、JSRT・JART企画、ランチョンセミナー、ティータイムセミナー、一般研究発表は、84題(雑誌掲載は49題)と盛りだくさんな内容で、後抄録として東北支部雑誌に掲載することができた。執筆していただいた方々にこの場を借りて御礼申し上げる。また、学術大会に参加できなかった会員にも、この雑誌を通して情報提供できれば、幸いである。

医師の働き方改革を推進するためのタスク・シフトティングにより診療放射線技師の業務が拡大され告示研修が実施されているが、更なる業務拡大のため、医療法改正に伴う線量の最適化、画像の精度管理、読影補助等の新たなタスクを獲得するためには、エビデンスが重要になってくる。多くのエビデンスを得るためにTCRTでの多くの発表や活発な討論を期待する。

コロナ禍のため無観客や感染対策を取りながらも多くのスポーツイベントが開催され、我々に多くの感動や希望・勇気等を与えてくれた。

サッカーワールドカップでは、ベスト8には届かなかったがドイツ・スペインを撃破し決勝トーナメントに進出した。この大会は最新のテクノロジーを駆使し、大きな話題となった。「三苦の1ミリ」もその一つで大きな論争を生んだが、ペトル・ダビデ・ヨセフ氏の撮影した写真が真実を伝えた。我々が使用する装置もAI技術等が導入され、簡単により鮮明な画像等を得ることが出来るようになっている。しかし、診療に必要な正確な医療情報を提供するために、常に装置を使いこなす努力を続ける必要がある点は、今も昔も変わらない。

(S.T)

事務局	公益社団法人 日本放射線技術学会東北支部 〒980-8574 仙台市青葉区星陵町1番1号 東北大学病院 診療技術部放射線部門内
電話	022-717-7418
F A X	022-717-7430
発行人	坂本 博
発行日	令和 5 年 2 月 28 日

